

全労金2014春季生活闘争ニュース第22号

《合意速報No.8》

四国労組が金庫との交渉を妥結しました！

四国労組は、3月25日、金庫との団体交渉において、交渉の妥結を確認しました。内容は、①準職員・臨時職員の雇用は、無期転換権を付与（要求通り）、②正職員・準職員・臨時職員の基本賃金は、賃金表に基づき定期昇給を実施（要求通り）、③正職員の一時金は、4.4ヵ月（要求は4.5ヵ月）、④準職員・臨時職員の一時金は、2.9ヵ月（要求は3.1ヵ月）、⑤「年間総労働時間協定」とあわせて、個人別に年間8日間以上の年次有給休暇の取得を目標とする「覚書」を締結する、とするものです。

団体交渉で金庫からは、「四国労金で働く職員が、勤めて良かったと思える働きがいのある職場をつくっていきたいと思っている。今後も職場の問題について、労使それぞれが情報収集を行ない、解決していく努力を続けていきたい。組合はパートナーである。来年・再来年の収支予測は厳しいが、卑屈になることなく、全職員で目標以上の収益をあげていきたい」等の見解が表明されました。

土居闘争委員長は、「臨時・準職員の無期転換権の付与については、昨春闘からの継続協議課題であったことや、労働組合が最優先課題として要求したことでもあり、それに金庫が応えたことは、労働金庫で働くすべての職員を大切に考える経営側の思いを伝えることができる。加えて、安心して働ける職場をつくるのが、経営責任であるという主張に同意いただけた結果であり、私たちも、それに精一杯応えるべく次年度の事業計画達成に向けて努力していかなければならないと感じている。一時金は、労働組合の要求通りとはならなかったが、昨年度実績＋ α を要求した主旨を汲み取っていただいたと判断している。四国四県で働くすべての労働者の安心・安全な生活は、労働金庫が支えているのだという誇りと責任を改めて労使で確認したい」等を表明しました。

なお、単組は、①「安定雇用」の実現について、最優先課題として取り組みを進めてきた結果、要求通りの回答が得られた、②一時金は、満額回答ではないものの、別途、アール・ワンシステム移行対応に関する「慰労金」として、すべての職員に一律50,000円が支給されることは、一時金要求に関する労働組合の主旨を踏まえた内容であると判断する、③ワークライフバランスのとれた働き方の実現に向け、2014年3月末までに「総労働時間協定」の締結、並びに、今後、総労働時間の短縮を意識した取り組みを具体化することについて、労使が共通認識に立てたことは評価できる、等から交渉の妥結を判断しました。

＊合意単組：8単組（3月25日20時30分現在）

静岡・北海道・北陸・中央・中国・セントラル・東海（金庫・関連）・四国

以 上